

## 流域水環境データベース構築に関する調査研究

全体期間

1998.10～2002.3

本文55P～60P

## (目的)

流域の水に係わる情報を集約した「流域水環境データベース」は、下水道管理者のみならず流域の市民が健全な水循環・良好な水環境の再構築を行っていくための支援ツールとなるものである。このデータベースの構築により、流域の水循環・水環境に係わる計画・施策および情報管理等のマネジメントサイクルが形成される。また、パブリックインボルブメントやパブリックコメント等を通じて、市民への適切な情報公開と多くの市民の参加が生まれ、合意形成を得た施策の展開がなされる。これら施策の展開は、流域の健全な水循環・良好な水環境を形成し、地域コミュニティの形成とともに、さまざまな水文化が醸成されるものと思われる。

ここに、「流域水環境データベース構築の手引き(案)」として「流域水環境データベース」の策定方法および活用方法、水環境の指標に係わるデータ項目、収集および加工方法や下水道整備の計画、管理および市民とのコミュニケーションへの活用方法等のとりまとめを行った。

## (研究結果)

## 1. 「流域水環境データベース」の定義と目的

本調査研究では「流域水環境データ」を、下水道事業が水循環・水環境に関与している状態を適切に把握するために必要となるデータと定義した。

## 2. 「流域水環境データベース」の機能と効果

「流域水環境データベース」は、下水道整備が進められた都市における水循環・水環境について、下水道の役割を考慮しながら、健全な水循環・良好な水環境を構築していくための支援ツール（計画策定支援、管理支援、コミュニケーション）としての機能を有する。本データベースを構築し、継続的な更新と活用を図ることで、下水道事業推進のインセンティブ、下水道整備効果の明示、流総計画などの計画策定支援、マネジメントサイクル（アウトカム指標化を含む）の確立等の効果を発現する。

## 3. 構築に係る基本方針と策定方針

データベース構築に係る調査は、流域の水に関係する各主体が個々の役割分担を認識するとともに、必要に応じて関係者で構成する調査協議会を設置して基本方針、策定方針を決定する。策定方針においては、データベースの標準化および更新・改良、データベースの活用の方法について設定し、策定方針では、調査区域、調査年次、指標の設定等を設定する。

## 4. 「流域水環境データベース」の活用

下水道の8つの基本的機能の現状と課題点を把握するため、それぞれに適切な水環境指標を対象とした流域水環境データベースを構築し、状態および要因を把握する。さらに、流域特性や情報効果、PIなどによって把握した住民ニーズ等を考慮することによって、流域に適した具体的な施策へと反映させることができる。また、マネジメントサイクルとして、継続的に流域水環境データベースを活用していくことにより、効率的かつ効果的な施策実施を可能とする。

ここに「流域水環境データベース構築の手引き(案)」として「流域水環境データベース」の策定方法および活用方法、水環境の指標に関わるデータ項目、収集および加工方法や下水道整備の計画、管理および市民とのコミュニケーションへの活用方法等のとりまとめを行った。

今後、下水道管理者が「流域水環境データベース」を構築するにあたり、この手引き(案)が一助となれば幸いである。

国土交通省都市・地域整備局下水道部からの受託研究

研究担当者：中里 卓治，高相 恒人，野村 宜彦，片桐 晃，田中 孝，  
加藤 雅治，舩岡 秀一，星 隆伸

キーワード

健全な水循環，良好な水環境，水センサス，データベース，水環境指標